

尊い礎石

見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、
尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、
決して失望させられることがない。

(ペテロの手紙第一 二章六節)



社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会
愛の園 統括園長 信川恒夫

新型コロナウイルスは社会に大きな変化をもたらしています。愛の園でもウイズコロナの取り組みがなされています。愛の園では、二月から面会の制限や来訪される方々への検温の実施、手洗いや消毒など感染拡大防止のためのいろいろな取り組みを行ってきました。五月からは、入居者へのサービスとして「オンライン面会」を開始しました。このサービスは、ご家族の皆様にも喜ばれています。また、愛の園の主任や管理者の使用するパソコンを、すべて「オンライン会議」対応できるように整えました。現在進められている改修工事においても、睡眠状態や動作の把握が、タブレットで確認できるシステムの導入を検討しています。このように愛の園にも、時代の変化の波が押し寄せています。

さて、四月七日に当法人の評議員でもある大嶋博道牧師の司式により、増築棟の定礎式が挙行されました。感染防止の観点から、ささやかな式ではありましたが、印

象深い式でした。そして、このプロジェクトの実現に、多くの方々の祈りと働きがあったことを改めて思い起こさせられました。

定礎式が終了して程なく、地盤改良工事が始まり、基礎工事、鉄骨組立てと工事は順調に進んでいます。また、介護職員採用のいろいろな取り組みも若手主導で始まりました。採用専用のホームページやチラシの作成も職員の手で行っています。私は、これらのことが自前でできる愛の園を誇らしく思っています。

冒頭の御言葉は、定礎式の時に読まれた聖書の箇所です。聖書は、キリストが「尊い礎石」であると教えています。礎石はコーナーストーンと呼ばれていますが、建物を建て上げていく時に、他のどの石よりも注意深く、またしっかりと据えられる要(基準、基礎)となる石です。「主が尊い礎石である」とは、イエス・キリストだけが、一人ひとりの人生の土台であることを教えています。

今回の新型コロナウイルスは、多くの人々に不安と恐れをもたらしました。急激に進む高齢化の波の中で、愛の園が地域の人々の心に平安が与えられ、今後も動くことのない礎石になればと思っております。

その思いを込めて、増築棟の名称を「愛の園シオンの丘」と名付けました。この施設が、働く職員と入居される高齢者にとって、生きる希望となり、平安に過ごしていただける施設となることを心から願っています。

完成に向け建築進む

既存棟では、エレベーターの更新工事も無事終わりました。いよいよ室内の改装工事が始まります。そして、電気や給水設備の更新、内装工事と続きます。(7月1日)



降り続く雨の中、鉄骨組立て工事が進められています。工事完成まで事故がないことを祈っています。(7月8日)



完成予想図



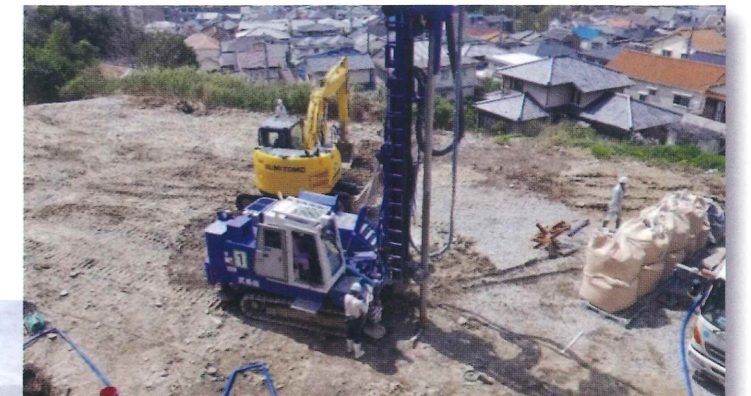
愛の園シオンの丘



大嶋博道牧師の司式により定礎式が行われました。工事関係者と建築事務所、支える会役員と職員だけの式でしたが、満開の桜の下で恵まれた時でした。(4月7日)



草刈りも終わり、測量が始まりました。桜も咲き始めました(3月30日)



地盤改良の工事が始まりました。直径1メートル、長さ2~6メートルのセメント改良杭が83本施工されます。(4月15日)



地中梁のコンクリート工事が無事終わりました。やっと建築現場らしくなってきました。(6月10日)

建築概要

主要用途	特別養護老人ホーム
敷地面積	5164.67㎡
建築面積	586.87㎡
延床面積	1512.09㎡
構造	鉄骨3階建て
定員	29名

